

令和5年度 第1回 鶴見区地域福祉保健計画（鶴見・あいねっと）推進委員会 議事要旨

日時：令和5年7月21日（金）14：00～16：00

場所：鶴見区役所1階予防接種室

推進委員：山崎委員長、八森副委員長、

石井委員、巴委員、小林(広)委員、小林(政)委員、斉藤委員、清水委員、谷委員、岩崎委員、
桑島委員（日向委員代理出席）平森委員、福井委員、増子委員、松坂委員、宮野委員
（欠席：押山委員、日向委員）

事務局：【区役所】

鶴見区長、鶴見区副区長、福祉保健センター長、福祉保健センター担当部長、
福祉保健課長、高齢・障害支援課長、こども家庭支援課長、学校連携・こども担当課長、
生活支援課長、生活支援課担当課長、区政推進課地域力推進担当課長、
福祉保健課事業企画担当係長、事業企画担当職員
（欠席：区政推進課地域力推進担当係長）

【区社協】

事務局長、事務局次長、事務局職員
（欠席：鶴見区社会福祉協議会会長）

1 開会（進行：福祉保健課事業企画担当係長）

写真撮影の承認及び議事録のホームページへの掲載について確認。

2 推進委員、事務局自己紹介

【推進委員】

委員の退任に伴い、新たに委員になっていただいた7名の方より自己紹介をいただいた。

退任：板山委員、門脇委員、小清水委員、新田委員、渡邊委員

新任：岩崎委員、小林(広)委員、巴委員、平森委員、松坂委員、宮野委員、山崎委員

【事務局】

異動に伴い、新たにメンバーに加わった職員から自己紹介をした。

福祉保健課 藤牧課長、高齢・障害支援課 高橋課長、こども家庭支援課学校連携・こども担当 児
玉課長、生活支援課 大内課長、区政推進課 中島課長、福祉保健課事業企画担当 大竹職員、鶴
見区社会福祉協議会 川崎事務局次長

3 委員長挨拶

今回から委員長に任命されました。私は民生委員を25年、地区の会長16年目、あいねっとには長く関わってきました。本日を迎えるにあたり、去年の資料を見返してみましたが、18地区で様々な取組があり、生麦第二連合としても一生懸命取り組んでいるが、それ以上に取り組んでいる地区があることを知りました。委員の皆様におかれましては、本日の報告や意見交換で得たことをそれぞれの地区に戻られた時に活かしてご活躍いただきたいと思います。本日はよろしく願いいたします。

4 区長あいさつ

日頃からそれぞれの立場・役割で鶴見・あいねっとの推進にご協力をいただき、ありがとうございます。これまでも委員の皆様から貴重なご意見をいただきあいねっとの推進に努めてきましたが、今回から、新たに4つの団体にご参加いただいています。ぜひ、新たな視点からご意見をいただけると幸いです。また、昨年度のあいねっど推進フォーラムに参加し、地域で活動している方から直接活動を紹介いただき、熱心な取組の報告に心を打たれました。今年度の推進フォーラムについても、委員の皆様と一緒に考えていきたいと思っています。本日は皆様の日頃から感じられていることや今後の活動についてご意見をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

5 議事（進行：八森副委員長）

（八森副委員長）今回、新たな委員を迎えたため、新たな視点のご意見などもいただきながら、活発に意見交換ができればと思う。

（1）第5期鶴見・あいねっど推進 年間計画（案）（説明：事業企画担当係長）

資料3（令和5年度鶴見・あいねっど推進 年間計画）をもとに、次の通り説明。

令和5年度は第4期計画の中間期となる。引き続き、地域住民の皆様と関係機関で協働して、各地区でのあいねっどにつながる取組を継続していきたい。今年度の推進委員会は、本日が第1回、令和6年1月に第2回を開催予定。

（八森副委員長）事務局からの説明に対して、何かご意見、ご質問等があればいただきたい。

→特になし。

（2）第18回（令和5年度）鶴見・あいねっど推進フォーラムについて（説明：区社協事務局次長）

資料4（令和5年度鶴見・あいねっど推進フォーラム概要）をもとに、次の通り説明。

今年度も鶴見・あいねっど推進フォーラムを開催する。推進フォーラムは、1年間の地域活動の集大成として、またあいねっどの普及・啓発のため、年1回開催している。1部で社会福祉功労者感謝会、2部であいねっどの説明や地域活動に関する事例発表等を行っている。昨年度は、4年ぶりの開催となった。上末吉地区におけるひとり暮らし高齢者の会食会、ガイドボランティアと障害のある地域住民とのお互いさまの関係づくりの紹介、矢向小学校における小学生による地域住民との交流の3事例について、関係者にご登壇いただき、発表を行った。

【当日参加された方のアンケート結果について報告】

事例発表について、「まあ良かった」を含めて97%の方が良かったと回答している。感想・ご意見については、「進行がスムーズだった」「自分の活動の参考になった」「それぞれの分野の登壇者の想いが伝わる構成だった」等のご意見をいただいた。

【今年度の推進フォーラムについて】

資料4は現時点での案である。日時は令和6年2月17日（土）午後1時30分～午後3時30分頃まで、場所は鶴見公会堂で開催する。昨年度の開催において、動画での事例発表が大変好評だったため、今年度も同様に動画を使った発表を考えている。開催方法、開催規模、事例発表の内容や構成等については、事務局で検討し、令和6年1月に開催予定の第2回推進委員会にてご確認頂く。

(八森副委員長) 今年度のフォーラム計画については、事務局で検討し、1月の委員会で最終的な承認をいただく形にしたいと考えている。

(3) グループワーク

テーマ：現在、ご自身の団体はどのような分野・団体と連携しているか、今後、地元の企業・学校・保育所・NPO法人・社会福祉法人などの多様な主体も含めて、どのような分野・団体と連携していきたいか

(八森副委員長) あいねっと第4期計画の推進の柱1「つながりのある地域づくり」の中で、関係団体・機関の連携や多様な主体が参画し、地域活動を活性化するという行動目標を立てて推進している。そこで、さまざまな分野でご活躍されている委員の皆様で、団体同士の連携について話し合うことで、多様な主体がつながり、連携していくためのヒントを得て各団体の今後の活動に生かしていくことができればと思っている。

まずは、昨年の夏に公開した地域活動の紹介動画のうち、豊岡地区で行われている認知症サロン豊岡ふらっとカフェの動画をご覧ください。

<豊岡地区（豊岡ふらっとカフェ）紹介動画を視聴>

(八森副委員長) 豊岡ふらっとカフェについては、豊岡地区において、民生委員、介護者の会、地域ケアプラザ職員、区社協職員等の関係団体・機関の方が協力して開催しており、清水委員も携わっていらっしゃる。その他にも、例えば、潮田地区にある子育てサロンと鶴見国際交流ラウンジが連携して外国につながる親子向けの子育てイベントを開催するなどの分野を超えた連携や、民生委員・児童委員とケアマネージャーとの交流会などの福祉機関と委嘱委員との連携も行われている。

<4グループに分かれてグループワークを行う。>

【グループワークのまとめ】

(1グループ)

市場地区では市場中学校、平安小、市場小、の市場中学校ブロックにおいて、9年間でこどもが地域の一員として自覚を持ち、地域を知り、地域の方とふれあい、地域への愛情を深めることができるよう取り組んでいる。具体的には、低学年で地元を知る、高学年にかけて知識を深め、中学校で、自分が地元になにができるのかを探していただくプログラムとなっている。進学や就職等で地元を離れても、いずれ地元に戻ってきて活躍してほしいと思っている。

各団体と横のつながりを深めることがあいねっとだと考えている。こういった機会を通じて、各団体がつながっていけると良い。

(2グループ)

福祉に関連する情報があるところとはすでに繋がっている。担い手の不足と互いの高齢化により、今までの活動が難しくなることが危惧される。海側ではお隣にお醤油を借りに行くなどの近所付き合いの文化が残っている一方、山坂がある地域では近所付き合いの仕方が違ってくることもある。今後は、地域特性に合わせた情報発信が必要である。

障害分野の方の話から、障害者の防災訓練の参加について、障害者の立場に立つと、視覚障害は移動のハンディキャップがあるが、町会から発災時に手助けをしたいという話があった。

コロナも落ち着き活動が再開している。これまでの活動を把握しつつ、新たなスタイルに向けて今年、来年は情報収集や発信のチャンス的一年であると考えている。

(3グループ)

病院内の認知症サロンで委嘱委員の枠を超えて各団体が「キャラバンメイト」として活動していたり、老人クラブのイベントで精神障害者の作品を出展するなど、各分野の団体の連携があることが分かった。

子どもに関する取り組みとしては、地域の小学生の要望を聞く会を設け、子どもの声を受け止め要望を叶えるために働きかけている。寺尾第二地区では、地域の子どもを集め馬場地域ケアプラザで「話そうカフェ」を開催するという新たな取組を行っている。

精神障害者家族会の取組としては、地域ケアプラザに家族会の広報誌を置かせていただいたという話があった。地域ケアプラザにとっても障害者の相談・支援につながる等、相互に補い合う形になっているとも言える。

(4グループ)

国際交流ラウンジの活動として、鶴見区は外国につながる方が多い中で、子育て支援拠点であるわっくんひろばと連携して外国の方を支援している。離乳食に対する考えやイベントの予約制度などの文化の違いをつなげるためにはキーマンを作ることが大切である。SNS を駆使して、影響力のある人を見つけて情報を発信するなど、外国につながる方がどうネットワークを広げていくかを考えていく必要がある。外国につながる方が日本で長く暮らしていくために老後年金問題も含めた生活課題があり、取り組んでいる。

民生委員の会長からは、鶴見区は民生委員の充足率が高く、災害時要援護者の情報共有方式を使っている地区が大変多く、今後も 100%に向けて活動したいという力強いメッセージをいただいた。

専門家につながる取り組みの中でも、ネットワークの構築については、引き続き努める必要がある。

鶴見区は小・中学校個別支援級の設置数が第一位であるため、学校と早い段階で話し合い、合理的な配慮の必要な子ども達が安心して健やかに過ごせる地域を目指したいというご意見をいただいた。

【八森副委員長からグループワークの講評】

活動の思いや要素について話して下さった方が多く、たくさんの団体つながっていることが分かった。つながることで初めて見えてきた文化の違いということで外国人の話があった。つながることで次の一歩につながり次のテーマになっていく。地域の中で埋もれている「つながりたいという思いはあるがどうやってつながればいいのか分からない」といったことについては、施策が必要である。つなぎ役が欲しいという意見もあったが、つなぎ役がいろいろなアイデアをもってつながり方を考えていくと良いのではないだろうか。

情報共有方式については、市の中でもトップレベルの移行率ということで、個人情報に縛られて動けないといった状況を一歩乗り越えて取り組んでいることが素晴らしい。移行率を 100%にすることを具体的なテーマとして動いていくということが目標となるだろう。

地域の活動について、フォーラムのパネルを見て前向きな気持ちになれたという話もあり、フォーラムが地域で活躍する皆様の糧になっていることを感じた。地域の活動に参加する方を増やし、参加している方に継続して頂くためにも「いいことをいいことだ」という文化を育てていきたい。

障害者の防災訓練の参加については、お互いを知るチャンス、会話のチャンスが必要なのではないかという話があった。

コロナ禍で活動をやめようとしている活動団体へ働きかけができないかといった話もあった。今年、来年はいろいろなことを再開し、情報の収集・発信するチャンスのにしましょうという強いメッセージを頂いた。情報発信キーマンについては、SNS を使ったキーマンの影響力・拡散力が近年強まっているため、大切な存在になっている。

(4) その他

・鶴見・まちづくりゼミナール 受講生の募集

30代、40代、50代「私」を活かす場づくりとして、地域で活躍したいが具体的にどのように行動すればよいか分からない方に向けた講座を開催する。講座で地域活動の概念や活動方法を学び、実際に地域活動の場に見学に行き、活躍している方の意見を聞く。すでに募集は始まっており、9月30日から講座が始まるため、周囲の方にもお声掛けいただきご参加いただきたい。

6 閉会

(山崎会長) ご参加いただいた皆さまには、本日出た活発なご意見や八森先生のお話を各団体に持ち帰っていただき、それぞれの分野において連携をより一層進めていただければと思います。皆さん、熱心なご討議ありがとうございました。